

武庫川女子大学生生活美学研究所 第1回定例研究会

通算
172回

家族の絆から 共生の時代へ

講 師:北浦かほる

「共生を住まいの絵本から見る」

住まいの絵本の魅力は、欧米の子ども部屋研究抜きには語れません。環境心理学分野から、子どもの精神面の発達を「独立した自己の獲得」と「社会的自己の獲得」とするM. Wolfの研究と格闘していた頃、絵本空間の中で、子ども達の自律や共生への様々な挑戦が繰り広げられているのに気付かされました。共生という生き方はautonomyやself-identityを獲得し、他人との違いを自己表現出来ると共に、相手の自由を尊重する事と無関係ではありません。

講 師:中村 孝之

「暮らしの場の変化にみる共生」

我が国は歴史上最も人口が多い時期を越え、変曲点を迎えたばかり。今まで誰も経験したことないベクトルは人口構造や家族、社会の変化となって現れます。これまで人は社会生活の中で様々な共生の形を作ってきました。第一次産業を中心とした社会から第二次、第三次産業中心の社会への変化に伴い生活スタイルが変わり共生のスタイルも変わりました。どんな時代にも人の繋がりは必要です。そこに内在する共生とは何か、住まい方の変化からその手がかりを見つけましょう。



2020
Nov.
14 sat.